

「輝け憲法と地方自治」～連帯のちからでくらしを守る政治へ～

まびだんご

2010/6/25(金) NO.7
発行：第10回地方自治研究全国集会岡山県実行委員会
事務局：自治労連岡山県本部
Tel086-223-0911・Fax086-227-1393 jichiroren-okayama@ac.auone-net.jp

うら
温羅くん



第10回地方自治研究全国集会 in 岡山

10月16日(土)岡山シンフォニーホールほか 10月17日(日)岡山大学一般教育棟ほか
12:00～ 受付開始 9:30～15:30 分科会・講座
12:45～ 現地歓迎行事 現地分科会 集合時間、場所など別途
13:45～ 記念講演 お知らせします。
17:30～ ナイター講座

参加費 2日間参加 / 1日のみ参加
議員など自治体関係者 6,000円 / 3,000円
住民団体、個人、学生 2,000円 / 1,000円

宿泊費、旅費、弁当代、現地ナイター講座、
現地分科会の参加費は別に料金がかかります。

楽しく交流し、ふれあい、学び、語り合ったフェスタ 600人の参加で大盛況



6月20日(日)に高梁総合福祉センターで「生き生きフェスタ in たかはし～第10回地方自治研究全国集会プレ集会～」を開催しました。

このフェスタは、「自治体労働者が住民のみなさんと直接つながる仕事について、フェスタという形で住民のみなさんと共に考え交流すること」を目的にしています。倉敷(04年)、笠岡(06年)、岡山(08年)に続いて今回が4回目の開催です。当日は親子連れなど600名の参加者があり賑やかなお祭りになりました。

同時に開催した「まちづくり地域づくりを考える」自治研集会には、高梁市の市民を始め新庄村や香川大学、農業委員からの参加者もありました。県内外の自治体労働者など90名が、中山間地域のまちづくりについて考えました。

フェスタの成功に向け開催地の高梁市職労は、地域の民主団体のみなさんと実行委員会を立ち上げ準備を進めてきました。自治労連岡山県本部現業評議会は休日返上で準備に奔走しました。こうした奮闘をはじめ、県下の実行委員会加盟団体の協力のもとプレ集会は大成功でした。



オープニングは備中太鼓の音が元気に響き渡りました

健康相談、やはり 気になります

本の読み聞かせ・人形劇は 子どもたちでいっぱい



倉敷医療生協「高梁市歯科診療所」による歯科検診



高梁市の人形劇団「クッキー」による人形劇

歯科検診、優しいお医者さん だからこわくないよ



倉敷医療生協「高梁市歯科診療所」による歯科検診



健康相談はたくさんの方が受けていました

うら
温羅くん



アユのつかみどり、 アユつりは朝から大盛況



アユのつかみどりは子どもたちに大人気。大きな笑い声で終日、賑わっていました



アユつりに集中!



釣ったあとは塩焼きでパクリ! 焼いている人は汗だくです

地元野菜の販売も好評



高梁農民連や市内農家のみなさんが協力販売

美星牛乳と揚げパン おいしいと大評判



揚げパンはキナコ味とサトウ味。牛乳とともに完売です

母さんのカフェ

新婦人のみなさんのやさしい笑顔とコーヒーにホッとひと息



それぞれのブースでも親子で楽しんでもらえました



フラワーアレンジメントに挑戦

用務員コーナー

大きくて細かい学校の模型に子どもたちもビックリ



宇治・松山高校を守る会の展示

母校を懐かしむ人も。「ぜひ存続してほしい」の声



高梁市社会福祉協議会職員組合のみなさんの協力で介護相談も行われました

環境コーナー



手作りの竹細工コーナーは子どもたちだけでなく大人も楽しんでいました



子どもたちは、高梁川で生息している生きものあてクイズに挑戦！生きものは実行委員がつかまえ、本番まで飼育していました

高梁市職労の青年部が、空き缶で作った備中松山城



給食の試食、手作りメニュー300食に「おいしかった、ありがとう」の声



あっという間に試食コーナーは満席。「おいしかった」「ありがとう」の声がたくさん聞かれました



早朝から給食づくりに大奮闘する調理員のみなさん



エコエコスクールに、市民のみなさんがたくさん空き缶をもつてきてくれました

うら温羅くん



憲法9条の会の署名もすすみました



充実した「まちづくり・地域づくりを考える」集会



午後から開催した「まちづくり地域づくりを考える」集会は充実したものになりました。岡田先生(京大教授)は「『地域主権改革』と中山間地域のまちづくり・むらづくり」と題して問題提起。「何が原因で困難な状況になったのか。民主党の推進する『地域主権改革』はどのような影響をもたらすか。まちづくり・むらづくりを進めるために何が必要か」「小規模自治体への支援の強化、住民と行政が協力して地域づくりを進める。大都市との連携などが必要」と提起しました。

高梁市の歴史まちづくり課の前野課長補佐は国の重要文化財がある地域が対象の「高梁市歴史的風致維持向上計画(案)」を基にまちづくり計画を報告し、全国で16市が国の認定を受け、県内では津山市が認定されている。高梁市は秋頃の認定を受ける予定で作業を進めている事や内容を報告しました。

高梁市の加藤企画課長補佐は「高梁市内の集落活性化について市内の2地域で計画書を作成した。当初は座談会などで地域の人から“万策尽きた”と言われる中で計画は始まった」と報告。「今後は作成した計画書の進行管理をやっていかないといけない」と述べました。

これを受けて計画書作成に協力した吉備国際大学の覇先生は、「住民の声を直接聞く、住民と共に策定する。また誰かが教えてくれると言う受け身でなく、押しつけでもなく、一緒に考えて住民が選び取る事を重視し、まさに真の協働をめざした」と発言。「このような取り組みの中で住民は“漫然とした不安”から解放された」と報告しました。

武田県会議員は「岡山県の中山間地施策」を報告しました。県が策定している「岡山県中山間地域活性化基本方針(改訂版)骨子」について、地域における課題として、「単独での地域運営が困難になっている集落については、複数の集落で広域的に支え合う等が課題になっている」などが議論されていること。そして「産業をどうつづけていくか、産業の育成なしにはやっていけない」と提起。

これらの報告のあと岡田教授はまとめとして、「まちづくりは暮らしをつくること、人をつくることが大事。そして財政、政策権限を地域に与え、地域にあったまちづくりをすることが大切。2世帯に1世帯が年金暮らしをしている地域では、年金を上げる、消費税を下げるにより効果が出る。高齢化は地域経済に重要な役割を果たす」と新たな年金経済の視点も提起されました。

当面の日程：7/17(土)第5回現地実行委員会(13時~/勤労者福祉センター)

備中神楽の踊りともち投げで閉会

「やっつて良かった」と開催地、高梁のまちでも実行委員のみなさんお疲れ様でした。



福の種のモチを配りました

